

911.3

バ

下

山家集

甲



欽明帝の時
 蕪我大臣向
 家ヲ毒捨ノ
 寺ト是寺也
 始ナリ其址天
 和古市ニアリ

洛西

梅室大人附句技萃下卷

勢南 菊所 編輯

混雜の部

白落小味暗豆喰少くわさまり
 耳の音をさす寺も持まきす
 舟をさくすゝるふ橋乃く
 我軍人の志あつて夏ふ草又冬
 此実をたりに猪ふまを無く
 獨るを思ふうとくそ美咲源



千葉之助常胤
保元平治比久
坂東八平氏内
能役者大和
春日社四座
外山室生 結崎樓
塔金剛回轉書

前見

蜚蜚

封子明鬼子ト
呼ハ辰状似ハ故
ナリ胡鬼子智
ツク子ト云世諺
ハ答ニヨキノコハ
蜻蛉ニカ各リテ
ハクシフ首ト羽
ツル板ヒテツキ上
レハ落サニトホウ
カリヲチス蜻蛉
故ヲトリ食フ故ニ
稚兒蚊ニクハレヌ
マシナトスルナリ

子魚の流交乃今よ之原まは
以て流まのく難いとくゆの頂つま
情これけ借もま流まどくむん
指よせまのと思を 勢カチこのく

まのまゆし〜〜 聖乃 流ハ
まゆハ 此流まを人よ美ま〜

唐織といふうらひまのまを金入
まゆの佛れまゆわ〜 辨り節
味〜まゆハ〜 門を建
板の〜トらま 時るありり

ゆゆ〜と流のまはま乃下流
まゆまゆ〜 あれハ〜 現き
まゆ〜と流のまはま乃下流
まゆまゆ〜 あれハ〜 現き

まゆまゆ〜と流のまはま乃下流
まゆまゆ〜 あれハ〜 現き

まゆまゆ〜と流のまはま乃下流
まゆまゆ〜 あれハ〜 現き

まゆまゆ〜と流のまはま乃下流
まゆまゆ〜 あれハ〜 現き

耕

東耕

其論語博非
アリ子孟子非秋
アリ

草薺

本草初集州大山
疾仕後出俗
蕉門駭客多
蘇曰草薺即
文草野著州
赤名
除夜則燈ヲ點
るハ患瘧瘧風
俗ニテ則患ヲ瘥
スニキ為ナリ

黒菜

前見

ミヤウチノアチルモ毒ヲ出ツケ
後トシテノ子毒ハ母トはク

ヤミヤノ味ノつきーヤミ
又ミヤノ福ミヤノひミヤノ毒ミヤノひミ

廁の灯それノ毒ノ一ツア
栗ノ本ノ山ノ毒ノ一ツ

恙ノ和布ノ毒ノ一ツ
少依ノワケノ毒ノ一ツ

アノ毒ヲアケル毒ノ一ツ
アノ毒ノ料理ノ一ツ

ミヤウチノ毒ノ一ツ
毒ノ一ツ

殺海ノ毒ノ一ツ
毒ノ一ツ

ミヤウチノ毒ノ一ツ
毒ノ一ツ

武州品川大森
前地名

前見

内裏公家以下
兼所ノ荷ヒ茶
賣ヲ檜垣茶
屋ト云

漢書

骨董羹

古事共此牛
東車用雜支
役ラカク坂ニ雜
役牛上云今ハ
馬テニ雜役
呼

浪花
扁額

信濃

神主書紀天
皇根子為祭主
即神主ナリ又
神功皇后親為
神主後利官通
稱ナリ唐土ハ
島為山川神主
ト夏本紀見

莽草

京極黃門建家
御筆跡一流

いと草の端引くまゝりし新よ
種より端々離るるまゝりし

旅傍のやれくろせ共きまゝりし

月なるとるを初すし一若

房のまゝりし軽役乃輪

乗折を小傳は飽は親のえ

津村くまの歌此居まゝりし

くまのまゝりしまゝりし

旅をまゝりし香列し

花をまゝりしいさゝか

本旅をまゝりし旅傍乃新よ

かち乗を約押てたりし山羊直

櫻栗をまゝりしことを流りし

依りまゝりしまゝりし乃坊

橋の上平しきまゝりし法業子

百姓のまゝりし書きまゝりし

宗祇姓三善号
種玉庵又鼻
齋紀州人
弥陀翻ノ無
量壽佛上去
鉦起リ舞ノ
半片ナリト云

前見

福兼井武州
入間郡ニアリ

温牡丹

肖相連歌長
地有温牡丹
牡丹花老人極
常ニ牛ノリル
行ヌ

榭

鹿首鹿皮成
蝦蟇鹿皮ヲ用テ
葉ト作テ全葉然
草ト云ハルヤシク
ニテ造ル當云秋
鹿カチラスヨルト
ヨロヒ末出

書紀果武尊

東夷ノ平坐耳
甲斐國酒村皇
居ニ進食ニ時
歌ヲ以テ向言其
摩利其波波焉
頑擬氏其取用加
新流流争論者
歌ヲ撰テ曰如鐵

宗祇乃抄をとめる海の

日よとて度あふる弥陀坐乃松波山

寺の岩と海屋の中よ坂一

うろろくと響かよ交る棒垂女 山

猿弟を佛の縁よとより

流あうろろとあそむる乃水

冬の牡丹古巻に

跡あり汁まよ牛と

は新工葉廣松乃

あうろろとあそむる 菖 節

うろろとあそむる

漢意とあそむる

振ハちる今焚果乃

渾と吾とけり口上

座をとりある 仮乃

又巻

奈倍 神代紀
聖祖龍神比耳
淡古島伽場釋
日本紀以連歌
ノ濫觴也

前見

笛ノ名神代紀
一書本國主人
伊弉册尊ヲ祭
ル条ニ出スリ

燕赤ヲ服セザルハ
中醫ヲ得ズリ
漢班固ニシテ
此句暗用セリ

京交言推現
勝皇地蔵騎
馬ノ隊甲冑

謡曲國袖ニ孫
毛有彦モアリテ
谷ノ茶ニヨリ
出入口云

師ヲ能化トシ
弟子ヲ所化ス
薄⁺菜

おそくく〜とあわ〜向〜る 古舟

風車〜の 角カヤと〜 采平

寿の方け〜の ち〜と〜 采

呼〜せぬの ね〜と〜 手

松栢葉のひ〜と〜と〜

治汁は初夜おけ乃月〜

医者のあ〜と〜の〜ぬ〜

移〜る〜は 海を〜

〜の〜は〜と〜

味〜あ〜。 積〜。 ち〜此 衆下り

〜と〜比〜年〜 貝吹〜 木 海

〜と〜入日乃 他〜との 者〜入

孫〜る 岩 産〜る 栗〜る 香 積〜る

大挿隆 偏〜と〜 鹿 鹿

〜と〜花の 赤 紅〜る 山 葉〜る ち〜と〜

柿のあは上〜と〜 印の 板

後〜り 木〜と〜 目〜と〜 ち〜と〜 地

供治料の 儀も 是〜と〜 志あ〜る あり

十部、法華
十部、轉讀

前見

伏見波川舟
三十一石云

碇、書三構
本在、リ、古、款
多、多、多、多、多
了、了、了、了、了
云、云、云、云、云
元、政、孝、僧、深
草、瑞、光、寺、誦
山、詩、歌、名、分

精進、無、雜、少
故、精、上、無、間
人、故、進、上、令、六
持、三、齊、戒
不、肉、食、之、三
乙、リ

舟の牡丹の花よりなる
本堂より船の舟乃登風
二人下舟の送る解と云
舟の舟の船舟か之と云

舟名
美

舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟
舟の舟の舟の舟の舟の舟

茶梅

三代實録集

和年中藤原

貞敏入唐琵琶

秘曲ヲ劉三郎ニ

傳心此樂器

吾國ニ入ノ始

連歌ニシテ緒

歌ニハコトナリ

角^ノ抵^カ戯^シ
相撲漢

角力^ノ垂仁^ノ

朝當麻呂速

野見宿禰ニ

ヲ名テカ^ノ能^ク

ニルヲ始^メ

上戸和字
本字大戸

山^ノ草^ノ花^ノの^ノ咲^クぬ^ルち^ノち^ノ羅^ノの^ノ
花^ノ籠^ノ 浮^クち^ノち^ノ 塞^ル 乃^チ 玉

海^ノの^ノ波^ノの^ノは^ノく^ノさ^ノり^ノと^ノも

と^ノの^ノち^ノハ^ノ人^ノと^ノも^ノの^ノち^ノも^ノも

と^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

代^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

角^ノ力^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

角^ノ力^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

と^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

と^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

と^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

と^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

と^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

と^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

と^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

と^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

と^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

と^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも^ノの^ノち^ノも

袈裟不色ト
譯入正色非ル
義後色彰稱
也ト云リ

前見

促織

應神紀武内
宿祢甘美納
宿祢文探湯
ノ夏ヲ載ス湯
立ハ是ヲ始ト
スルナルヘシ

大坂玉造柳番

沙彌戒臘ヲ
積テ和尚ト
ナルナリ

若し心をなすまをくたぐり
方くく巨浸の咄あうり
路色深ハまやく福むるむゆま
如湯生を隔りく色牛

門下入るくいとく
福をとり西湯焼ひり外さ
福ゆりり丸く場のは
急焼ふりり眠るりり

月は情性をうまう
るる雲ふさぬくとうく
うわうを旅のあれまをり
答ふくあう陸奥乃東

つきのあれさうり
色まうり子娘子の命を

作のまれつまのあ
私あまの心をかり川
新あはれんもあそふ

方素

云

位前校洛東三十三間堂慶長年間伐園果ヨリ始ル

漢名未詳

去来肥前産後居于洛西等落材舍向井平次郎八俗称ナリ

建仁寺龍巖師入元扁朝時林和靖未裔抹淨

瀬戸ナリ鼓頭ヲ造レテ葉トス是吾邦鐘頭ノ始

漢名其舊蒲五月軒ヲスハ泥莖ナリ

鼓子花

冬ニ三種アリ江湖ニ生スル漢名鯉魚俗名ノコト云海中生スルウミタナコト云漢名海卿

根津

冬ノ根津ノ...

夏ノ根津ノ...

海ノ根津ノ...

連ノ根津ノ...

在ノ根津ノ...

系ノ根津ノ...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

岡見大晦日夜
高き岡に登リ
叢ヲ倒シ着テ
我家を見見六
明年の吉凶ヲ
トナリ
文珠此妙吉
祥ト云手ニ利
劍ヲ持ス

告天

伊勢田六鐘
ナニ光明寺ハ
豊大閣許シモ
アリニ持テ世
一ツ鐘ト云
後深草帝時
常盤井實氏
入道寄附カ
トノ

今川義元桶
狭間收戦

凱陣もさく此船のさきと掃除
海をよしく初と帯と餅と戸

針のやうなる風なり 吹なり
とさくくあんなあぬ甲斐のあま

栗の碓穂と燃しく窓より
之珠のゆりれ 葎も拂りも

ぬハ茂くこれと雲 霞 吹雪
とさくくく電一さみのけり

戸のまをのひし物かうをさく
今吹く 滝うかの一つのみ

初めくくくつとさくくあれあ
控柄の葎くぬくくくくくく

あそさくあれく裡あれあ
さささくあさ木の根あれえ

とりくく今川攻の護候して
断つまははくそ轉くく砂

豇豆

カシカヤ漢名
未詳萬葉二
見云花八列名草
コナリ種カレ
名上云草ヲ佳
麥也ト云ル不當

長ノ故洛西廣
草ノ上高野
越止路

乞食又花子
化十正云

芳名公ガリタ
三ノ高野云中
古ニ至リ官人ノ
ヒカ住國ヲサシテ
縣上云ニヨリ傳シ
フ今八田舎縣
邑ニ呼リ

前見

美濃のまきふれ今もまきふれ
傳屋の一歩一ツと見え 糶る

まきふれは枝ふんまのまきふれ
戸強のまきふれまきふれまきふれ

まきふれまきふれ飯志つまきふれ
まきふれまきふれまきふれまきふれ

月々まきふれまきふれまきふれ
まきふれまきふれまきふれまきふれ

まきふれまきふれまきふれまきふれ

まきふれまきふれまきふれまきふれ

まきふれまきふれまきふれまきふれ

まきふれまきふれまきふれまきふれ

まきふれまきふれまきふれまきふれ

まきふれまきふれまきふれまきふれ

まきふれまきふれまきふれまきふれ

まきふれまきふれまきふれまきふれ

山城

淀祭九月廿三
両日祭神淀姫

青花魚

内則八十杖朝
ユルシクシナリ
此句案アリ

百年よととく命をたのりかり
言ふよ佳めとと 山ありう 雲も

少山のこしく半 乃 留干

百華の錦をぬもよ新あ

管のみの敷よ果くる 淀祭

新のあゆみふ奥さきたとと

た一ふよ 佳も 云々

世とされて 云々

たを 泉の 云々

流るる 云々

泉 かく 云々

流るる 云々

堀の 糸 云々

流中 云々

その 云々

意の 云々

ホシキ本訓
アカミナ漢名
王母珠

洛西

漢名未詳

哉くひもわらざる夢をとらぬれ
秋のゆくふはのる 酒壺
瓶のちきり人乃おとさし
賽の跡よまき 松をを撰出さ
ちるを人まきと 魏のまきけ
くまきしきる 志をくま 産
海ハふむ 海と 若かりをさく
古のまきを 海くくくま 産

能登氣多社
尊紀素交鳥
以為立教而
乞宿於眾神
上ナリ

能登氣多社
祭神倉貴命
又天活玉命庄云
鶉祭土月
鳥鬼

海くくくま 産
海ハふむ 海と 若かりをさく
古のまきを 海くくくま 産
君の時を又そぬ 振出し
袷着るはよきとくも 成其よりし
宵月のさし 建御座のゆかり 海
向入るまきをさく 海彼 損
費よまきの 物を 大勢より 出
海のゆく 海まきとくま 産

山城國相樂郡
今ノ木津

未出

野坡越前人
江戸及浪花ニ
住ス号樗木社

扇アラダナリ
摺扇ハ此邦
製ニ漢ニ不
團扇ナリ

大松ノ陣ニありてくわつる鐘
持まの親此ニ居るこの事

ふひの鐘も 結 忌 ころ

この鐘もわらわの里まふそのに

一筋の若ふぬき乃ノ橋まく

陰のまゝしを 心あらまゝ ぬ

そひちやゆづの杖をばはつるこ 耳抱

はまあひま舞の言をとまやん

あまのまののりつるをばはつる

とくふりくとせりす 牛のあ

鐘よりしたくま時をつくる翁

はまそまのくんとまめまあつる

燈のげままをわとふあある扇家

ふを流くまふの敷の張をれく

牡丹うまげふふの葉よふくま

強つぬ産卵あつる世をくま

浪人和字ニア
ラス王勃春感
賦僕本浪全カ

三五因會ニ非ス
讀習チニ非ス

近江

ハウシキハ撃拵
俗ニヲ搏シテ
ハウシキト云

姫神盛衰記

見エタル奥州
笠高ノ神ヲ云

祝詞神ニラ
ス詞

上野信濃界

祐庵茶人ナリ
共海望田久
北村氏

キリクヒノ樓
徒然草中語

浪人あきぬ 枕乃書ゆり

傍りふとて人あきぬをさしめし

とてあきぬを 枕乃書ゆり ハタシキ

早りあきぬを 枕乃書ゆり

早りあきぬの 枕乃書ゆり

姫神のまゝ入程月夜とのけ

り第一系 甲とて 乙とて 丙とて

舟のせりりよ 流るる 流るる 流るる

流るる 流るる 川干乃 船

櫂からり 流るる 流るる 流るる

流るるのり 乃 流るるのり

流るるのり 乃 流るるのり

川 流るるのり 乃 流るるのり

流るるのり 乃 流るるのり

切株の 櫂乃 流るるを引まり

職翰諸書
用明衣皇朝
始生有在唐
代予傳牛止
三枚至六漢
三此戲了上
是文り

江戸

漢名未詳

書紀早草專

見文り

伊勢田信後

受員録相前

百濟縣馬原

古馬本字坂

廣六

西京

末廣編端
了文中啓云

爲
家
我
社
中
研
究
の
故
也

翰
の
使
乃
口
之
以
成
也

之
自
刺
之
以
成
也

又
破
之
爲
以
成
也

穿
之
之
以
成
也

草
業
之
以
成
也

材
中
之
以
成
也

之
以
成
也

之
以
成
也

之
以
成
也

之
以
成
也

之
以
成
也

之
以
成
也

之
以
成
也

一
清
嘯

嵐雪服部氏
号雪中菴

七草萬葉集
芥之花ノハナハナ
葛花クワハナ
花ハナ
藤フジ
朝アサ
花ハナ

紀伊

前見

鮎大和芳野
川名産

前見

ま〜く萩の跡さ 意 乃 暖
あつちまゝ 猫も似合ぬ 意もあて

かきこる 名の海をいりく 香々人
まの後の種をよめり〜よ干は

あつれとあつる。 玉露 乃 七字子 玉石

あつちまゝさ 花のう〜ん 花を 花
人乃 花乃うれ 面なく なる
まを 花乃うれ 花乃うれ 花乃うれ

あつちまゝさ 花のう〜ん 花を 花

萩のさうひ乃 意のさうひ乃 月
人乃あつちまゝの意を 花乃うれ

地低く 意やう 葉を 花乃うれ
花乃うれ 意やう 葉を 花乃うれ

花のさうひ乃 意のさうひ乃 月
花乃あつちまゝの意を 花乃うれ

花のさうひ乃 意のさうひ乃 月
花乃あつちまゝの意を 花乃うれ

利休田中氏後
改氏名宗易
号抱笈齋茶
道中興ノ祖

近江

月令孟春
瀬祭魚

暴風

かきまのつを飛しよひまより入
まてし心志もさるるく入乃このは

文海

菌子海も五十世より人
垣よれく流し利休のくも
日さ高くとるゆる物さ
川穂のさるあさる勢田のさ

海

厚くひの報子いつる月のさ
中からのさるる乃さるる丸家

流の世もまたさるりせぬ
社よりさるるえれハ流のゆも

丈山も月もゆれく菊の月
春くく流乃さるるくひさるく

田はよりかふるさるるさるる
るのさるるさるる風さるるあさるる家

湖と背戸く風さるる波さるる
ちのさるるさるる同さるるさるる

石川文山隱居
洛東号六丈
詩仙堂築少
雞兒腸

竹葉鯉

一針一草煙
二見一八僅
物ノ人施与ス
云テ針供養

臘ハニ微物ヲ云
供スルヲ云ニヤ

鮮漢名松魚

御師御祈禱師

略東鑑壽永

三年背武備御

祈禱ニテ奉寄

武蔵國大河土

御厨一所於伊勢

外宮棟為年米

御祈師政時權

祓宜元親神素

氏玉鬘卷御師

ノ和見エテリ傍

注云初師ナリ

槍大平記佳告

合戰条下爾正

行兵士内天野

了願上云法師武

者柄ノ長ナリ

前ノ書槍

用名ノナリ

成カ所造ナリ

上云日本紀三代

實録ニ見ユク

槍ノ牙戰類尤

故保古ト訓セリ

今槍云非ル也

曹洞宗城ノ前

永平寺ヲ本堂

曹洞洞山ニ僧名

素禪源氏園屋

卷願注ニ素

禪ノ源ノウラヲ

ノケタルモナリ大

又奈見エタルス

キスアウ台是ナリ

單ニ地又ナキカ

故ニ素ト云ナルシ

縣素禪ノ略ナリ

計の休まらざる宵のちのめく
乾麩の目まなるともめとさうり

持らも兼もその鶴と法付く
椀持ふくく蛇千一 是 尚く
未兼

初志と古師の猶よのちとさく
鞠場乃土をたたくく承とさく
兼

ちのととさくよなれハ百陣
捕ハ浮溜と埋る浮込千
相る

多鷹とつとさくおれ 陰持
相る

秋のちとさくおのめとさく
かちとさく鶴とさく 乃 露

曹洞宗乃とさくゆとさく
雇人のちとさく後とさく 乃 露

ねくとさくおのめとさく
ちとさくおのめとさく 乃 露

ちとさくおのめとさく
乃 露

毎乃とさくおのめとさく
乃 露

警装の標とさく拂とさく
乃 露

福神一説大黒
恵比須ヲ大貴
巳東代生二神
ナリ今烟西
大黒西
摩訶逸羅神

京東山

前見

大和藤原
持統天皇都

書紀背負
十箇之撰
アリ後世胡録
藤原諸名
アリ

乃勢のたきあつくと居勢と
勢のこころはあむお挑灯

もきぬ風勢よそりくとまき
後勢の惚れつゝもたきつゝと
一甫

乃根一をひよとひりりいとお
うとひものつりもさき勢よそ
甫

制礼のうけよと念の勢よそと
人ほく牛とと念えととけく

藤原あをひひの巾の山村あ

圃うへのほり扱あむの葉の控和
雷降よそむ勢はまりつと

勢の書とあををえと勢
ち室よほととと勢の勢よそと

勢の勢とあむとぬ月ゆり
勢よそとあむとと勢の書

丑寅ヨリ吹ヲナ
ラシト云方言云々
ニ云云
後鳥羽院ノ時
榮西入宋ニテ禪
法ヲ傳ル
後鳥羽院ノ時
洪然ノ易行遠
ヲ勸メテ浄土宗
ヲ立ス

駿河

逸史明皇愛三
終南山愛僧尺
分付ス上コレヲ
吹ニ前ヨリ習ル
尺ノ如ク下云尺八
此邦ニ傳ル所
年間ト云コトヲ
不考

伊勢

國俗總名琴去
今十三弦ハ新也
河海抄云婦前
色子筑紫彦山守
唐人字申由ヲ授ク
色子はア宇多
天皇ニ授ケ奉ル
因テ筑紫琴
凡云

かろくく止く蝉も蚊も鳴 未葉
佛檀も深く堀もハ深 古家
錫の徳利とこもさる 叔売 葉
大もも七管もぬくもさる 子もさる

富士川のとまりのさる 秋の風
なす根葉もあつたさるのさる
一吹風の世と拂ひゆく
つるもゆもまりのさる

さるもさるのさるのさる
さるもさるのさるのさる

月も寝もむ新なり 初もめ
尺ハの河東柳もさる

小豆粥医者の丁稚もさる
はとね飯乃るるさる

さるも入一人 飯もさる

さるもさるのさるのさる

さるもさるのさるのさる
さるもさるのさるのさる

丹波能勢
妙見

草とやめく枝勢とありし
此の姿をわりのあつた
氣ちううく遠に襟とせ

時

秋冬

霧の度とあまそそと
人あせるとあたま
くさくさ

陸奥

ささきと草もたつと
ふはたあまの砂と
拵ぬく芦のあらくと

蘆

笛間地各家隆

前見

きりくさきとささき
筭の勝とむくは初沙

かきくさきとささき
川とさきとささき

さきとさきとささき
女とさきとささき

押うけさきとささき
新自とさきとささき

角黍原
甲大八
二始
二端
二午
二作
二習
二ハ
二セ
二ナ
二リ

相見く平語等
二見
二エ
二タ
二リ

下

三

前見
穆子

大和

前見

とてや月夜に乃なるは山
かうとこれ先達をな秋の

新しき障子。まきまき十三枚
磐地まわりの 釋乃刈

くやいあられふ世の事をよめる
ひやうてまらこころるるの市

とて改のそや物れまの月
筆も跡をい風名のおを滑

数珠念珠ヲ
数ヲトル故ニ
ストト呼ナリ

前見

近江

はなむのねの横もは瓦葺
移の葉おありの表えつ

つゆくは切馬若ぬあてうい
あかしのなをともくらの振舞

あかしのなを帯はねる
二百の雲くまきこ 古く
あかりつこの下葉付くまき

糸系

葉

道祖神佐倍乃
加美書紀ニ謂
之岐神コレニ
當レルカ

且東方見ク
太白上云昏西方
ニ見ルヲ長庚
ト云

佛瑞應經云
四月八日夜明星
出時生即周
莊王十年四月
辛亥也下法苑
珠林見エタリ

律三佛聽蓄
柱杖蓋行李之

江戸

奥浅抄ニ鳩吸
ハ八何支ノ答曰
獵師ハ鹿ヲト
知ラセシト患フニ
手ヲ合セテフ多
鳩吹ト云ナリ

岩の露へまろりろへるるは総外
の月 さるる大白乃野

月さるるはと佛生海

餅のさるる存留るる上のさるる

さるるの擲入あるるの海の水

滑るるのさるるの瓜るるのさるる

さるるのさるるは強く核あり

さるるのさるるのさるるのさるる

牛のさるるのさるるのさるる

神のさるるのさるるのさるる

月のさるるのさるるのさるる

さるるのさるるのさるるのさるる

さるるのさるるのさるるのさるる

西のさるるのさるるのさるる

陶尾張守晴
賢大内美隆
臣謀殺ニ押領
周防長門後新
元就ニカレ

播磨

控取ぬと入るるるは
るるるるる陶の一
某灰のそのとるるるの裏
あひもようぬ 梅乃一掃
うはらうくと下り漂もる
足さの地利を控く又もる
日も暮るく夏のあつくと空の町
番と持拂と控入るるるり
山吹くさるるるるるる

雲石

羅漢松

上野赤城
金曾連母登書
整々孟蘭盆

はらうととるるのあらよ梅のま
はらうととるるのあらよ梅のま
あれととるる梅のあらよ梅のま
控取ぬと入るるるは
るるるるる陶の一
某灰のそのとるるるの裏
あひもようぬ 梅乃一掃
うはらうくと下り漂もる
足さの地利を控く又もる
日も暮るく夏のあつくと空の町
番と持拂と控入るるるり
山吹くさるるるるるる

下

三三三

會談孟蘭供
救國縣上益益貯
食淨器下諸國
中是節過後行
多流行益去
美濃

三河

遠江秋葉權
現社祭神大已

時りきききき 柳の生り

杉舟の松花 雲の志月

鳴ききき 野千 柳さききき

とろくと 居住の 陸路の人

湯の音ききき 笑け

ふゆの音ききき 乃 汐をききき

との音ききき 乃 汐をききき

引ちききき 乃 書ききき

ききき 乃 書ききき

ききき 乃 書ききき

ききき 乃 書ききき

ききき 乃 書ききき

ききき 乃 書ききき

ききき 乃 書ききき

ききき 乃 書ききき

ききき 乃 書ききき

西方弥陀國
エトス故三顧手
徒八皆西席ノ
想ヲナスナリ

竹譜目所次
月寫春

前見

擧

從我國吉臣
水上書テヲミト
訓ス後モトニ訛
レリ

前見

新田左衛門佐
義興六卿山上
矢口渡舟中ヲ
自殺ス其靈
祟ヲナス

近江

照姫八相州權
現堂上云宿ノ
遊女リ小栗
満重男少郎
ク元難ヲ救ヒ
シテ大草紙ニ
見テ介與本
照手姫アリ

藤原英二はつとをたつとて
酒殿よまをりて 傳を強ふ

人の心はつとをたつとて
人の心はつとをたつとて

少佐の心はつとをたつとて
少佐の心はつとをたつとて
少佐の心はつとをたつとて
少佐の心はつとをたつとて
少佐の心はつとをたつとて

少佐の心はつとをたつとて
少佐の心はつとをたつとて

少佐の心はつとをたつとて
少佐の心はつとをたつとて

少佐の心はつとをたつとて
少佐の心はつとをたつとて

少佐の心はつとをたつとて
少佐の心はつとをたつとて

觀世音普門
呂法花ノ流
通分ナリ

今井四郎兼平
ハ義仲忠臣共
粟津田畔ナリ

故事ニヨリ
ク云一説ニ
青椿ヲ栽
杏穢ヲ去
隠ト書ハ音
傳セナリト云

前見

風う吹くも普門品より
の二階より下へ流るる

たしく時め入らるるなり

若草の根を引く

そそあつたよりのゆかり

とあつたよりのゆかり

あつたよりのゆかり

あつたよりのゆかり

あつたよりのゆかり

あつたよりのゆかり

あつたよりのゆかり

あつたよりのゆかり

あつたよりのゆかり

あつたよりのゆかり

あつたよりのゆかり

手紙

時

六

前見

本館家乃神...
出...
...

行厨

本館の解...
見...
...

山

山

前見
鳩

...

山城

...

...

...

...

...

夜合
香
了り

後例き〜 杉や栞や

百くまいかゆのくろくみさる 和一

志角よ佐物 均く〜 逢ゆり

き〜き〜き〜き〜 瘡 志角

漆〜きよ梅の蔭入と〜 倉

前見

ひ〜き〜ふ〜き〜く〜 福登のうとぼく

芝色入き〜く〜 と ぶ 乃 三

眠り〜き〜き〜き〜き〜 たいふき〜き〜き〜

信濃

か〜り〜と〜ま〜へ〜く〜 何〜も〜多〜

自〜き〜き〜き〜き〜 けふ とき 並

あろ〜き〜よ〜と〜り〜と〜 塙のち〜あ〜れ

ち〜種 ぬ〜き〜き〜 宇 治 の 石 姓

山城

眼のあ〜き〜 友を ^{ヤニチ} 高〜く〜 並

つ〜き〜ひ〜の〜お〜ま〜い〜の〜も〜 押 登 人

雲〜き〜き〜き〜き〜 牛よつ〜き〜き〜あり 相る

漢名未詳

瘡 ち〜き〜き〜き〜き〜 帯 女 ち〜き〜き〜

江戸

山城宇治

黄蘗山六辨

朝僧隱隆

崎ノ開山トス

常陸

金銀の事此下を... 溜湊を
少々の... 坂乃... 新... 也

此... 上... を... 也... 也
... 也... 也... 也

... 也... 也... 也
... 也... 也... 也

... 也... 也... 也
... 也... 也... 也

... 也... 也... 也
... 也... 也... 也

... 也... 也... 也
... 也... 也... 也

... 也... 也... 也
... 也... 也... 也

... 也... 也... 也
... 也... 也... 也

西住山行大
弟子在家の時
ヨリノ給仕アリ

前見

伊豆

覆膊

下

三七

莊子養生主
庖丁爲文惠
君解牛庖丁
名此三始也

甲斐

前見

庖丁の解牛をくわりの如きを好く
そのくわりの好むをいひ十月
凡煙のうけふうのくわりの如く
好む好むをいひたる如くや
はより去る年の月もたつら
あつかりうのこふ御田んを
治せんの時くわりのくわりの
好む好むをいひたる如く
好む好むをいひたる如く

賽本名殿字

丁香

治玉石凝痰命
ヲ祖トス

その好むくわりのくわりの
あつかりうのくわりの
院内の月もせいのくわりの
好むのくわりのくわりの
ちんくわりのくわりの
たつらくわりのくわりの

仁德紀四十二年
 依綱阿部古捕
 異鳥又首捕
 酒君同之對昌
 許呼俱知未幾
 時而得馴酒君
 居脫上猷之即
 今時舊也

補陀落山公南
 天竺三ツリ觀音
 坐跡之地熊野
 那智山八樹之云

月あよ田所の蔓をたたりあけ
 雲くわー 雲く入 秋まありを
 をくくぬ木の雪の氷ね 幸悲に
 雲くまをなうく火よあこりわ
 多の股 雲く入 海をくくく雲を
 流くあありハ 海流の流く海
 補陀 流や 風をくくく雲の
 都くまをわく 雲くまの雲を
 雲をくくくくくくくくくくく

梅室大人附句 枝萃下卷 終

あはれなきわらわのこころの形状をいふは
ほろろとていかに世に梅実人連教乃詞をいふ
勢南に菊所子といふこといふはいふは標を
とていふこといふはいふはいふはいふは
とていふこといふはいふはいふはいふは

風月不遊ふくま友小志うは友たのむをみる小
 高かれ山水の幽遠望るは蹤放或は素手城
 入るこも〜 嬋妍紅園小遊う〜と〜とあふひ
 海にあらぬま〜と〜とあふひハ醉たあおるた
 暇りあるをいふ事〜とある出たま〜とあふひ
 ありあ〜と〜とあふひハ醉たあおるた

女侍をわらひよ〜と〜とあふひハ醉たあおるた
 け〜と〜とあふひハ醉たあおるた
 勢南け菊所子〜と〜とあふひハ醉たあおるた
 とも〜と〜とあふひハ醉たあおるた
 せん人達にみせあは様素を〜と〜とあふひハ醉たあおるた

なまはたのうゝてはらまへん人ともあはれしと
れれぬりあるまへ

成る付春金葉の二行信陽史母書付字定

あまのそとせの聲に転



金花堂藏板目録 日本橋南通四丁目
須原屋佐助

源氏物語忍草 五冊 成島公序

此書ハ源氏物語一部の大表強初巻に於てもあるあり源氏を
學びの少人を必をまのよみ味に後之をき書あり

源氏百人一首 一冊 黒澤翁満大人著

此書ハ他家に於小余の紙よりある源氏物語の中より
百人を撰びおのづかの各一首づを中して見たり
まうり安死やう小強辨を加らるるり本書ハ大部乃
ゆのあれがまの所出の書よりして源氏乃大表をより
るべし

唐物語

一冊 西行上人作
清水演臣大人標注

此の書ハ西行上人の唐事トモをまづ國のよばふ事トモ
はりし事ありしをわらわし上人の逃ありし言傳ふる
家ハ文體亦殊なりといはるるも撰集大人の撰なり

萬葉檜落葉 五冊 正木千幹大人輯

此書ハ故よと物こんとする初巻のこたふあふ集乃
けのありしつくりしと初巻を註釋するも註しむるは
五巻と也

一の巻 天壽の部 二の巻 地儀の部
三の巻 林檎檉教人倫風俗孫下の部
四の巻 腹合袋紙の部 五の巻 鳥獸集正木本の部
有る物とて秋鳥考堂本ゆべき書あり

古今選

本居先生輯
村田並樹大人校

此書ハ本居大人奇とある人の先代不代集の中より
なをよむるを採りてとて為すもその選詞の
よなよもしく物せしめる書あり

類題和歌補闕 六冊 加藤古風大人撰

此の書ハ世にわらわし和歌奇集の類のよありし奇乃
類乃二千五百題首ありし代々の
物撰集の集字合ありし多く採集せ且歌の撰字
考入訂正しし然も人のよしに補ししありしを
よ書あり

古今和歌集新校正 二冊 賀茂翁考正
鈴屋翁再訂

う 次やう 色目

小本 緑色摺一

御茶清息未は用白う次やうに季よりの定まらるる
組合あることよりの消息けうきうこも糸のちうくこを
まらせらるるあり

正誤假字遣

懷中 横本 一冊

賀茂季鷹縣主輯

此書は古事記日本記系集和名抄あまたとて
假字をいふはあてりしを不使あてりしむ
詞乃

假字便覽

一冊

大野廣城先生輯

此書對於書假字濁語假字假字
いふまようひへの音便の元をよるをま
かうはとくまらる書あり

言元様

一冊

大石千引先生著

去れ書ハ初ノ元ノ義を詳不考定めらるるあり
濁字のて用言中の濁音あたる詞の元を
濁る例ハ一切をりし字の濁字を
洋字に次書ハ五十書あてて檢索便あり

假字考

岡田眞澄大人著
鵬齋先生漢文序
濱臣大人かふ序

此書ハ假名ハ初と準書此よりながき本
なるふはひを源の文字はまをり
ある漢ふ十音の考ふはひて
たり改ふは人の書體をもあらま
号ハ人中也大ふ書あり

新朗詠集

一冊

真海柏木先生輯
素堂山本先生校

此書ハ詩ハ上文武帝より中條迄の詠小宮等々その人物を撰之を内世の前後を以て二巻成す一巻ハ詠小宮等々の定らざるを依者乃内世小宮等々を春夏秋四時より分川幸一小本集の如く一巻小宮自派より終り内世の詠を大書せり

歌仙繪抄

一冊

藤原正臣先生著
喜多武清先生摸畫

此書ハ世老の家譜及び奇の心を頭書と以て終り本集は武法先生のもふ如くを美とす

純和帝御撰
集外歌仙

一冊 一名近代歌仙

此ハ如けまゝもり一巻後巻屋の上巻の撰をせり一巻神門院の撰をせり

岸本由豆流大人著
土佐日記考證

全二冊

此書ハ古記種解と述べて其小約つるを二巻成す一巻は其の考證を季吟法下等件に重聚志剛翁本居宣長翁村田實翁其外古人の説を以てあけまゝに其説をも交前本士之説を以て校正志剛翁一六日日記の四本と一巻小必家小志一巻入り堂右におきんばあゝくは

更科日記

二冊

加茂真淵翁歌集

小本 二冊

橘千蔭翁歌集

小本 二冊

平春海翁歌集

小本 二冊

橘千蔭先生手本類

新百人一首かきま

新三十六歌仙かきま

須木の貝かきま

古今集か系序

山居帖かきま

源氏ゆきかきま

大歌所御歌かきま

真草千字文

萬葉新採百首日

吳竹帖

湘雲帖

俗用手簡

同先生用筆大中小色々

松花堂瀧本猩々翁手本

六旬帖
氣霽帖

紀貫之朝臣の書

石摺

此書ハ紀仲約言兼輔ハの家集哉紀貫之の書也
後小傳ワリハるを校ふるりまると何字を添へりうをひ
うぐひあまの書也

屋代先生書艸書千字文 石摺

猿山先生書庭訓往來 二冊

天民先生書赤壁賦并千字文 石摺

龍澤先生行書小學題辭 石摺

近代諸名家畫譜 全 二冊

玄對先生畫譜 山水之部 五冊

此畫譜も唐宗元明法諸大家の画法の初編画譜を
唐宗の中より唐宗の書を採集して一書画宗の書を
画宗机の上並にせんばるべくさうもの

同 先生畫譜 人物花鳥之部 三冊

金生樹譜 三冊 長生舍主人編

此書の草木蜂植の培法室此以ひより接木の法を
考ふるを考成後けく考よく考ふる又法蘭の法
木を考ふるその考成を後けく考ふる木を考成
人の考成後けく考ふる考成あり

松葉蘭譜 一冊

此書の松葉らんを考成するより富士考ふより考成
名葉らん種の圖を考成する考成

幼稚畫手本 一冊 柳烟堂主人筆

去の書も山水人物考の法を画からふ人の考成
とく柳烟堂主人筆の考成あり

古今名馬圖彙 繪本金剛傳

繪本勇士鑑 繪本武者揃

彫物畫手本 名家畫譜 三冊

一名大和錦

魚獵手引種

繪本百物語 五冊

繪本三國妖婦傳

上編五冊
中編五冊
下編五冊
合十五冊

此書ハ高蘭山先生の校本あり世に知られるところの
至深の書の讀本なり 他を深長大流りの書

抱一先生畫譜 一冊 彩色入善本

日光山志 五冊 植田孟縉編

御山の御事ハ今も知らるるもあつた
光 皇 御山の御事ハ今も知らるるもあつた
光 皇 御山の御事ハ今も知らるるもあつた
光 皇 御山の御事ハ今も知らるるもあつた

神恩 神恩を奉るは... 神恩を奉るは... 神恩を奉るは...

今世書乃他者... 今世書乃他者... 今世書乃他者...
今世書乃他者... 今世書乃他者... 今世書乃他者...

神恩を奉るは... 神恩を奉るは... 神恩を奉るは...
神恩を奉るは... 神恩を奉るは... 神恩を奉るは...

畫本勲功草前集 十冊

山崎知雄大八輯
喜多武清先生画

此書は古今の英雄豪傑の卷あり、集巻に官集紀
日本紀、神代、昔物語、活活拾遺、歴代東鑑、古事記、本
數十冊の圖史、雜史、軍記などを綴り、いづれも名畫の
流を傳へるを惜みたり、一冊あり、一冊あり、一冊あり
一冊あり、且圖々可産翁の妙子をあり、むねの画巻物あり、
先哲乃書を準按し、松尾の巻を密に、画のまをこれハ
畫をあたは、先哲乃書の準按し、松尾の巻を密に、画のまをこれハ
引てあま、先哲乃書の準按し、松尾の巻を密に、画のまをこれハ
場へ、あま、先哲乃書の準按し、松尾の巻を密に、画のまをこれハ
たま、先哲乃書の準按し、松尾の巻を密に、画のまをこれハ

後集ハ逆刺と仕込

臨時客應接 一冊

未學先生秘授

此書ハ先師傳授あり、重くけりて、いふある所の月表より、
後集の心あり、小田原なる為、松尾の佐の支度あり、
主人の心あり、より、松尾の佐の支度あり、
約と記したる、いふけりて、いふある所の月表より、
料理の志あり、又麻葉を敷席のり、
案内、お水の括、お水の括、お水の括、
何、お水の括、お水の括、お水の括、
す、お水の括、お水の括、お水の括、
出、お水の括、お水の括、お水の括、
未、お水の括、お水の括、お水の括、

梅室家集

二冊

梅室先生自撰の集あり

梅室大人附合集 二冊 勢南菊所 編輯あり

木葉俳諧集 五冊 双雀庵木葉翁の家集也

芭蕉發句小鏡 一冊 雪中庵蓼太翁述 門人 三 駱 著

此書ハ發句集ナリトシテハ向をよる事ナリトシテ極佳仕立也

古今見こひやぶ五百題發句集 二冊 黑瀬曾見翁校輯

此書ハ古今名人の發句を題ありてくもて俳門のあそび人のあよりおもしろそ名人の発句の字だけり今人とまじり

俳諧年表録 一冊 尺尺齊豊山翁著

此書ハ貞徳芭蕉の年表をとりてつきの名家の年表

俳諧人名録 二冊 東都惟草芥先生輯

此書ハ世の俳諧家の人名をいれはかやと名その中其長句をとり

俳諧發句題叢 四冊 楯立太節翁輯

此書ハ和歌歌集抄小中ひて全代の名家二千七十八人の發句をあらわす芭蕉小園ありて其名家の年表をあらわす

俳諧發句朗詠集 初編 二冊 一名口調龜鑑

此書ハ宗匠家の撰びおのく同トわうこも百餘の
はとあひくみかおのく乃風骨あるて成るるんごら
徳義の深ある後かをあらわするあり

俳諧合鏡 懷中 一冊 拙堂芦丸翁撰

此書ハ古今の著名き人の名を四季に移るる
由堂探録なるの便りとする書あり

俳諧手引草 全二冊

俳諧職業盡 二冊 茶靜大人撰 梅令大人校

此書ハ遊戯茶子尚俳牛烟雀所の教いませこの書もある
及ぶる職業の教をあれりて画圖にあつて清浄を
おへてを例ふ天の明は茶子世現る小動るまで人の
向を操びくたおふりちて是を合せり只俳諧小技ふ
人のとあらはとの書をよきあつて書ふもありたり
なり且句案のつれとあるべき書あり

今人明題集 二冊 双雀茶氷壺翁輯

此書ハ天保の初日より世おへる俳家の書句をよ
きする本也

天王承統譜

懸物下地唐紙摺

此書ハ天神七代地祇九代より一々今ノ御代までを
系圖一著一月小見安くくむる書あり

山繭養法秘傳抄 一冊

此書ハ山繭の種兒をう同調をうぬやう糸まのむやうの
法より始く織やう秘傳までくく圖小あうて
轉寫の書あり

古今名物類聚

全十八冊

不昧公著

此書は諸家小秘苑志より漢製和製の名物茶葉菓子合及
古切中成園小あう其の秘苑の監定を志ると茶屋
抄ひるふ人の秘苑抄一冊を著あり

廣益諸家人名錄二冊

詩佛 五山 兩先生序

此書ハ現存の儒家書畫家園葉家所有秘苑より象
新嘉坡定家小あう其の秘苑の監定を志ると茶屋
抄ひるふ人の秘苑抄一冊を著あり

富士根元記

一冊

鈴木頂行先生校

此書ハ終本秘苑園を經歴せし法也小後河の
富士をとりぬ津極より築紫より伊豆よりその外
行く小あう其の秘苑の監定を志ると茶屋
抄ひるふ人の秘苑抄一冊を著あり

勸善忠義傳

二冊

け書の家傳の以て義者と實をいへり内田屋吉右衛門
み代ふりつづまきく家傳を御とすは義傳とく善徳
ふくむ徳のいひのたよその徳と地とく
よはれぬ義傳ふりつづまきく者もは門より出さるる須道信又死
せる者あり

截縫早手引

横一冊

女中必用

この書はうぶ女の裁くく男女守縫法陽つけ紐の法一冊三ッ
身此の裁く相織上下袴馬衣袴肚袴合袴あち腰具まき
うぶ帯のぬひこふ帯こりあし香櫛純子毛織斤面の布はかり
ゆき帯をひかきふあしう截縫かや微細かきり
裁ののさるふもまきりあしう易く出来て稀代の書
の書あり

野總茗話

常盤潭北著

全二冊

此書はうぶ君臣父子夫婦の礼法より五事の教訓を
して俗事礼節未のまきとあしう神徳仁の大徳をも
たよむ儒者乃ん法をを及して初教めとあしう

革究圖考

彩色摺

大形本全一冊

昔の革の白より武意の装ハリに及ぶをあまきり
あまきり革の板衣衣人まきりありは其の革究の文名を
天年皮三年のうぶ革あまきの内種物をあまきり
の鞆領經々の甲革板板を右左の甲胃の文革を彩色摺
紋且革の名目を右書よりして平たよむ武具あまきり
各名をいふる書あり

伊勢貞丈先生著千賀春城先生補
軍用記 彩色 全七冊

此書は伊勢安高先生のうきあはせしるを千賀先生
 補考して古画のまじりたるをより板書を以て先代中流の
 月錦霞下小袖等並に重宝袴烏帽子袴等並に古甲冑の形
 等々を草紙系威毛並に草具並に色々々の形を固府
 保良庵並に草花旗幕並に草馬具並に亦る色々の前實檢
 並に首札附等の威状書状抄等並に草武衣羽織著初祝
 禮師傳入等の草並に亦る色々の形を固府
 是る書は是の草並に亦る色々の形を固府

武器袖鏡

一冊

栗原先生著

此書ハアラユル武器ヲ圖式ニテ示シテ且附言ニ兵士ノ事ニ
 付精ニキ考ヘアリ

武器袖鏡後編 一冊

同 著

此書ハ甲半首喉輪ヨリ馬具旗指物等ニ至リスヘテ武
 器ノ圖式ナリ

武器袖鏡三編 一冊

同 著

此書 現在スル古甲冑五十二種ノ威色ヲ彩色圖ニテ示
 シ甲冑製作便ナラシム

甲冑圖式 二冊 掌中本 同 著

此書ハ武林法量ニ編ニシテ甲冑ノ圖ヲツマビラカニ

弓箭圖式 一冊 同 著

此書ハ先生著ハス處ノ武林法量中弓箭ノ節タリ
武家方カナラズ見玉フベキ書ナリ

單騎要略 五冊 村井昌弘先生編輯

此書ハ甲冑ノ着用故實禪襪衣等付ヤウ頭盛ノ緒々
纏ウ背旗ノサヤウ等マデオク圖ヲ設ケテ詳ニサト一
携ル處ノ鎗乃器械ニ至ルテ其故實ヲ明カニ一騎前
セリ武家方ハナリ有職ノ學シ玉フ人必坐右ニ置ベキ書ナリ
村井先生ハ神武迪精武學先入等ノ作者ニシテ其名高シ

校正 古今 鍛冶銘早見出 尾関永富大人撰 上今本一冊

此書ハ大宝中ノ天國ヲ始トシテ今ノ世ニ至ルマテ千餘年
ノ間鍛冶ノ銘ヲ輯録シ始一万余六十餘工ニイタル
古刀七千六百八十餘如多銘ヲ集シハ末世二十千所也シカ
新刀二千六百八十餘ナラス見出ニ速ナランカタメ銘ノ頭字ヲいろは分ニナシ
長銘二字銘ハサラナリ年号彫リシホトノモノ其年号
ヲ頭ニ年号ナキモノ其時代ヲ考ヘ年紀ヲ施シ父子
兄弟子弟ヲ紀シ且梵字ハ治工ノ信心ノ候スル處ナレバ
是等ヲ頭ニ亦甲冑ハ我身ヲ護ル第一ノ要具ナレバ
卷末妙珠家早乙女家等ノ家系并ニ鑑定次第
ヲ附録ス神武家方ハ云モサラナリ武器商ノ家々モ
片時モ坐右ヲハナサレサル珍室ノ書ナリ

古刀 目利早手引 同撰 西面摺

此書ハ又紋ノ掟又ハ時價或ハ切レ物并様ノ了ナト顯シ
初学ノ便リニ上ナキ珍書ナリ

古刀 相撲取組 同撰 同

古今 正真便覽 同撰 折本

此書ハ古刀新刀ヲ銘忠鈔ハ云ニ及ス又紋鈍ニ至ルマテ正真
倭ヲ寫セシテハ此圖ヲ見覺時ハ正作ヲ見テ立所ニ夫レノ
作ト知ルヲ面漆ノ人ニ逢カゴトシ又ハ劍ハ圓形ヨリ出ルヲ
圖ヲ以躑シ且疵ノ用捨或ハ目利會シヤウ又ハ當同前并ニ
点シヤウヲモ附録シ亦劍尺ヲモ録シテ懐中ノ重宝トス實
無双ノ珍書ナリ

掌中古刀銘鑿 一冊 巨横園輯

此書ハ先ニ銘盡數多アリトイヘ其ト事替リ當 同前
專兩作一傳ノ次第珍敷作人其外吉野年号打作以
又文中心鑄廣狹帽子ノ箇條肌煮鈔目造リノ様子梵字
并彫物ノ次第鑿定會ノ入札ノ卷ヘヨリ致シ鍛冶ノ官名作
人位列鍛冶ノ系圖并名寄等ニ至レテ委シク辨シ難キハ圖
出シ疑難事ハ載ス奇大珍書ナリ

武家用文章 一冊

此書ハ武家方ノ文章之用向ノ切紙よりナドめて細書
在去結衣裏白物結納若代中月派小あらまで巨細
若くハ武家ノ文章ノ切紙よりナドめて細書
細書ノ文章ノ切紙よりナドめて細書

歴代帝王承統譜

折本 一冊

此書ハ唐虞以來清道光帝ニイタルマテスベテ漢土歴代承統ノ主ヲ系譜ニ作りテ歴史ヲヨムモノニ便リス

草聖彙辨

八冊

清朱迦陵先生纂辨 皇國永根文峯先生校字

漢土ニテ歴代ノ草法ヲ集メタル書數多アルカ中ニ此編精善ナルニ如ハナシ我朝兼明親王ノ書ヲモ此編ニオサメ出セリ始メニ三畫ヨリ三十畫ニ至ルマデノ檢字アリ此ニヨリテ字ヲ索ムベシ第八卷ニ草法母觀ヲ附シタリ草書ヲ學ヒ玉フ君子珍セズンバアルベカラザル書ナリ

明季遺聞

四冊

清鄒錫山先生著

此書ハ清ノ鄒錫山ノ手輯ニシテ明末李自成ノ乱ヲ倡ヘン本末ヨリ清ノ開闢ヲ平定スル事ニイタル國性翁ノ事實等コノ書ニ詳ナリ

皇和魚譜

二卷

栗本先生纂

此書一ニハ河魚類凡五十一種ノ圖說ヲアゲ卷二ニハ河海通在ノ魚類一十三種ノ圖說ヲアケラレタリ海魚ノ類近刻ニ出ス魚類ノ性味良毒ノ辨シガ多混シヤスキモ此書ヲヨミタマハハ分明ナルベシ

爲己執記

一冊

羽佐間芝瓢先生著

此書ハ醫道ハ人ノ爲ニスルワザト心得ス己ガ爲ニスルノ仁道也ト心懸ルガ肝要タルヲ辨シタル書ナリ



老婆心書

二冊

老口訣

此書ハ婦人妊娠ヨリ小兒出生無病ニ成長セシムルテアテウ
涼調理飲食好惡宜忌等ヲ平假字ニ書シテ心得ヤカク

張氏醫通

廿七冊

明張路玉著編

附本經逢原診宗三昧傷寒讚論
傷寒緒論傷寒舌鉅兼證折義

西音發微

二冊

柳圃先生遺教
大槻玄幹先生著

此書ハ和蘭書辭釋ノ時西洋語ニアタル和音唐音ヲ撰
ビ對註ノ仕極ニ詳ニサトシ西洋字原考ヲ附シタリ



張氏醫通

廿七冊

明張路玉著編

附本經逢原、診宗三昧、傷寒讚論

傷寒緒論、傷寒舌鉅、兼證折義

西音發微

二冊

柳圃先生遺教

大槻玄幹先生著

此書ハ和蘭書繼釋ノ時西洋語ニアタル和音唐音ヲ撰
ビ對註ノ仕様コ詳ニサトシ西洋字原考ヲ附シタリ

